



Data

監督・製作：スパイク・リー
 出演：デレク・ルーク/マイケル・イー
 リー/ラズ・アロンソ/オマー・
 ベンソン/ミラー/マッテオ・ジ
 ャボレディ/ルイジ・ロ・カージ
 ヨ/ヴァレンティナ・チエルヴィ
 /ピエルフランチェスコ・ファヴ
 イーノ/セルジオ・アルベッリノ
 オメロ・アントヌッチ/ウォル
 トン・ゴギンズ/ジョセフ・ゴ
 ドン=レヴィット/ジョン・タ
 ウーロ/ジョン・レグイザモ

👁️👁️ みどころ

1983年ニューヨークで起きた黒人の郵便局員による殺人事件をきっかけに解明されていく、イタリアを舞台としたあの戦争中の真実とは？セントアンナの大虐殺と、イタリアに投入された黒人兵たちで構成されるバッファロー・ソルジャーとの間に、どんな関係が？私たち日本人がほとんど知らない歴史上の事実を、スパイク・リー監督が光をあてた160分の大作は見応え十分。歴史上の事実をしっかりと押さえながら、『グリーンマイル』（99年）を彷彿させる不思議なファンタジー色もじゅくりと・・・。

160分の大作は見ごたえあり！

私がスパイク・リー監督をはじめて知ったのはデンゼル・ワシントン主演の『マルコムX』（92年）を鑑賞した時で、私にとっては衝撃的な体験だった。その後の彼の作品で強く印象に残っているのは、脚本のすばらしさが光った『インサイド・マン』（06年）（『シネマルーム11』65頁参照）。プレスシートにはスパイク・リー監督を「脚本・監督・製作に加えて著作や教育にも携わり、映画界における黒人の役割を変革。インディペンデント映画の自主製作における先駆者でもある」と書かれているが、私も全く同感だ。

そんな彼が本作のテーマとしたのは、1944年8月12日、イタリアのトスカーナのサンタンナ・ディ・スタッツェーマ市で起きた、市民560名をドイツ軍が皆殺しにしたというセントアンナの大虐殺。また、本作の主人公になるのは、黒人兵だけで組織されたという第92歩兵師団、バッファロー・ソルジャーに属する4人の兵士たち。イタリアは日独伊三国同盟にもとづく枢軸国の中で最初に降伏した国だが、そこにはこんな黒人兵士たちの役割があったとは・・・。

202分の長尺だった『マルコムX』も全然飽きることなく鑑賞したが、160分の本作も同じ。今まで全く知らなかった日本の終戦記念日のほぼ1年前に起きたセントアンナの大虐殺や、バッファロー・ソルジャーの兵士たちの姿を描く163分の大作は見ごたえあり！1983年のニューヨークで起きたある殺人事件を描く導入部の後、映画の舞台は突然第2次世界大戦の真っ只中にある1944年のイタリアに移る。このストーリー展開は結構難しそう。こりゃ、腰を据えてじっくりと。

郵便局員は、なぜ発砲を？

前述のとおり、映画冒頭は1983年のニューヨーク。カメラは窓口で無愛想に切手の販売をしている初老の黒人男を捉えている。何人かの客の応対をした後、切手を買いたい求めている客の顔をまじまじと見た彼はこの男に対して突然拳銃を発砲したから、周りは大パニックに。

この事件を調べるのはアントニオ‘トニー’リッチ刑事(ジョン・タトゥーロ)。そして遅れをとって取材にやってきた記者がティム・ボイル(ジョセフ・ゴードン＝レヴィット)だ。ボイルの「泣きおとし戦術」が功を奏し、ボイルは容疑者宅の現場検証に同行させてもらえることに。部屋の中から発見された彫像の頭部を警察官と共に美術商のエンリコ(ジョン・レグイザモ)に鑑定してもらおうと、何とそれはイタリアのフィレンツェのサンタ・トリニータ橋を飾る“プリマヴェーラ”という、大変貴重な作品だった。こうなれば、翌日ボイルの書いた記事がトップを飾ったのは当然。こりゃ、ボイル記者は超ラッキー。

他方、そんな新聞記事をカフェで偶然目にしたことによって思わずコーヒーをこぼし、カップまで落としてしまう紳士の姿が登場する。この男は一体ダレ？そしてまた、前科もなく借金もなく、兵役免除後まじめ一筋に生活していた郵便局員がなぜ突然ドイツ製の拳銃であの男を射殺したの？また彼はなぜそんな高価な美術品を持っていたの？警察の尋問に何も答えず、またボイル記者の質問にも黙して語らない郵便局員だったが、感情が激してきた彼は遂に「俺は知っている・・・」と語り始めた。さて、その告白とは？

個性的な4人の黒人兵のキャラに注目！

本作では、なぜ第9歩兵師団バッファロー・ソルジャーたちがイタリアの戦地に派遣されてナチスドイツ軍と戦っているのかについての解説はない。しかし、イタリアのムッソリーニ首相が1943年7月25日の「宮廷クーデター」によって解任・逮捕されたこと、イタリアは1943年9月8日無条件降伏したこと、その後はナチスドイツ軍がイタリア中・北部に進駐したことなどは日本人も知っている歴史的な事実。そんな戦地にバッファロー・ソルジャーが投入されたわけだが、まずは主人公となる4人の黒人兵士の個性と階級に注目。

多分4人は同時期に兵士になったと思うのだが、リーダー格となるのが知性溢れるスタ

ンブス二等軍曹（デレク・ルーク）逆にちょっと頭が弱そうだが、信心深く、フィレンツェで拾った彫像の頭をお守り代わりに持ち歩いている巨体の兵士が1番下の階級のトレイン上等兵（オマー・ベンソン・ミラー）また、そんなトレイン上等兵をバカにする、自分勝手な男がビショップ三等軍曹（マイケル・イーリー）自分の欲望に忠実なビショップは、映画中盤村の美しい女レナータ（ヴァレンティナ・チェルヴィ）とねんごろになってしまうから、彼を見ているとジコチューも悪くないけどつい思ってしまったり……。そして4人の中で1番地味なのが、無線兵のヘクター伍長（ラズ・アロンソ）イタリア語を喋れる彼は4人が村の中で孤立した時通訳として貴重な役割を果たしたが、彼らは戦死することなく、無事帰国できるのだろうか？

キーマンは、不思議な力を持った少年

本隊から孤立してしまったトレイン上等兵がスタンプスの指示で偵察に出かけた小屋の中で出会ったのが、不思議な力を持った少年アンジェロ・トランチェリ（マッテオ・シャボルディ）なぜかトレインとこのアンジェロ少年は心が通じ合ったらしく、アンジェロ少年はトレインのそばを離れなくなってしまったから面倒なことに。やむをえずリーダー格のスタンプスはアンジェロ少年の同行を許したが、その後のストーリー展開のキーマンとなるのがこのアンジェロ少年だ。彼は一体なぜ、1人でこの危険な場所に？ちなみに、いくらいじっても直らなかつた無線機が、アンジェロ少年が姿の見えない“友達”に対して「助けてあげる？」と話しかけた途端に直ったからヘクター伍長はビックリ。もともと、ヘクターも首にかけている十字架にキスをするのが習慣という信心深い男だから、トレインが認めているらしいアンジェロ少年の不思議な力をここではっきりと認識することに。

アンジェロ少年は映画中盤一貫して不思議な雰囲気をかもし出しているが、その正体が明かされるのはずっと後になってから。また、アンジェロ少年が「チョコレートの巨人」と呼ぶトレインはひょっとして村を守るという言い伝えのある「眠る男」の生まれ変わり？

そんな4人の黒人兵のキャラが イタリアを舞台としたナチスドイツ軍との戦い、部隊からはぐれた、村の中での村民たちとの交流、イタリア人のバルチザンの騎士ベッピ・ザ・グレート・バタフライ、グロッタ（ピエルフランチェスコ・ファヴィーノ）やロドルフォ（セルジオ・アルベリ）との交流（？）等を通して丹念に描かれていく。もちろん、このストーリー展開は映画冒頭に登場した殺人事件の謎を読み解くため。すると、冒頭の殺人事件の容疑者は一体ダレ？

セントアンナの大虐殺はなぜ？

本作が160分の長尺になったのは、村の中に潜伏する4人の黒人兵士たちのストーリーとは別に、イタリア人のバルチザンの騎士ベッピやロドルフォの活躍が描かれるから。『誰がために鐘は鳴る』（43年）を観ても、『チェ 28歳の革命』（08年）や『チェ 3

9歳 別れの手紙』(08年)を観ても、村の中に潜伏しながら敵と戦うパルチザン闘争、ゲリラ闘争は村民の支持を得られるかどうか大きなポイント。ペッピーらによって次々とドイツ兵が殺されたことに業を煮やしたドイツ軍の指揮官は、560名の村民を一か所に集めてペッピーの所在についての情報を提供しろと脅迫。村民を取り囲むドイツ兵は300名で、もちろん村民に向けて機銃がセットされていた。さて、村民たちは誰かがペッピーの情報を提供するの？それをあくまで拒否し続けた場合の報復とは？

セントアンナの大虐殺はそんな中で起きた悲劇だが、1人でも2人でも逃げ出せた者はいないの？目を覆うような惨状の中、本作ではそんな人間ドラマが展開されていくから、そこらあたりはあなた自身の目でじっくりと。

『グリーンマイル』を彷彿？

トム・ハンクス主演の『グリーンマイル』(99年)は弁護士としての私が死刑執行の実態について注目した映画だが、本来のストーリーの核は死刑囚として送られてきたマイケル・クラーク・ダンカン演ずる黒人の大男ジョン・コーフィが獄中で見せる奇跡の数々と、その中から生まれてくる死刑囚と看守との心の交流だった(『シネマルーム1』34頁参照)。

「大男は知恵が回りにくい」というイメージ(?)が定着しているためか、本作のトレインも『グリーンマイル』のジョン・コーフィと同じような(?)大男。そのため、クソ重たいプリマヴェーラの頭部を戦闘中でも腰にぶら下げて歩けるし、大木の下敷きになったアンジェロ少年を怪力で救出することができたわけだ。また彼は知恵の回りは遅いが、信心深いうえ、言葉遣いには厳格。したがって部隊のボスであるノクス大尉(ウォルトン・ゴギンズ)がアンジェロ少年の前で口汚い言葉を吐くと、それに面と向かって注意するほどだから大したもの。

もともと4人が本隊から孤立してしまったのは、このノクス大尉の判断ミスによるもの。だって、待ち構えていたドイツ軍が猛攻してくる中、命懸けでやっと川を渡り、スタンプス二等軍曹とヘクター伍長が砲撃目標を無線で知らせているのに、ノクス大尉が勝手に「川を渡っているはずがない」と判断して、川の中を砲撃するのは無茶苦茶。いわば4人の兵士たちはノクス大尉の判断ミスによって、味方から砲撃されたわけだ。それはともかく、本作におけるトレインの言動をみていると、『グリーンマイル』のジョン・コーフィを彷彿？

村の安全はいつまで？

色気の乏しい(?)本作で紅一点として登場するのが、英語がしゃべれるため村民と黒人兵との架け橋となる女性レナータ。女に飢えた黒人兵たちの目に彼女の姿がまぶしく映ったのは当然だが、スタンプスやヘクターが紳士的に接するのに対し、好色そうなビショップの目はいつか問題を起こしそう？そんな微妙な男女関係をはらんだ村に、ペッピーたちのパルチザン部隊が食料を求めて山から降りてきたから話はややこしい。さらに彼らが捕

虜として連れてきたナチス兵士をノークス大尉が引き渡せと要求したから一悶着が起ころう。そして心配なのは、ペッピとロドルフォは最大の親友らしいが、パルチザンの団結ってホントに一枚岩？そんな波乱含みの村の安全はいつまで続くの？

そんな心配をしていると、遂に今ドイツの大軍が村に押し寄せていたから、さあ大変。イタリア国内におけるナチスドイツの力は既に大きく低下していたが、村民をやっつけるくらいの兵力はなお十分？そんなドイツ軍との戦いにおける4人の黒人兵士たちの奮闘ぶりは？そして、レナータや村民たち、さらにアンジェロ少年たちの運命は？ドイツ軍の大攻勢の中生き残れるのは果たして誰？

それは、あなた自身の目でじっくりと。そうすれば、再び登場する1983年のニューヨークにおける、あの郵便局員の裁判の展開も少しは読めるのでは？

2009(平成21)年5月25日記



89

「セントアンナの奇跡」

(今日からテアトル梅田ほかで公開)



© 2008 (Buffalo Soldiers and On My Own Produzione Cinematografiche)-All Rights Reserved

この奇跡「グリーンマイル」越え？

島国のためか、何かと閉鎖的な日本人は外国の歴史に疎い。その上、今ドキの若者は先の大戦すら知らないから、三國同盟の友国イタリアで起きたセントアンナの大屠殺も不知？

第2次世界大戦でいち早く1943年7月に降伏したムソリーニ率いるイタリアには、ヒトラーのドイツ軍が進駐し連合軍と対峙、米国黒人兵

で構成するバッファロー部隊を含む連合軍がフィレンツェを占領した41年8月12日に起きたのが、パルチザン掃討作戦展開中の独軍による伊市民560名の大屠殺だ。

冒頭は83年のニューヨーク。年老いた郵便局員が、切手を買いにきた男を突然射殺。動機不明の殺人犯の自宅捜索で貴重な膨像を発見。こりゃ一体ナニ？ その鍵は、彫

像が消えた44年のフィレンツェに。そこで場面は一転し戦闘最前線に。この戦闘シーンは「ブライベート・ライアン」(98年)の冒頭20分を彷彿とさせる迫力だが、バカな司令部将校の誤判断で味方の銃弾を浴び本隊から取り残された最前線兵士は悲劇だ。

（ここから始まる個性豊かな4人の黒人兵と村人との交流は？ パルチザンとの遭遇は？ そして「少年を守りたい」との

熱い思いの原動力は？ その展開と感動をじっくり味わいたい。個々のエピソードの連続による強いアヒル性が集中力を高め、全体構成の見事さが160分の長さをお忘れさせる。英語を操る紅一点の美女をめぐる妖しげな挿話もリアルで効果的。何よりも少年のつづらな瞳に注目だ。そして、あの少年は今どこに？

大阪日日新聞 2009(平成21)年7月25日